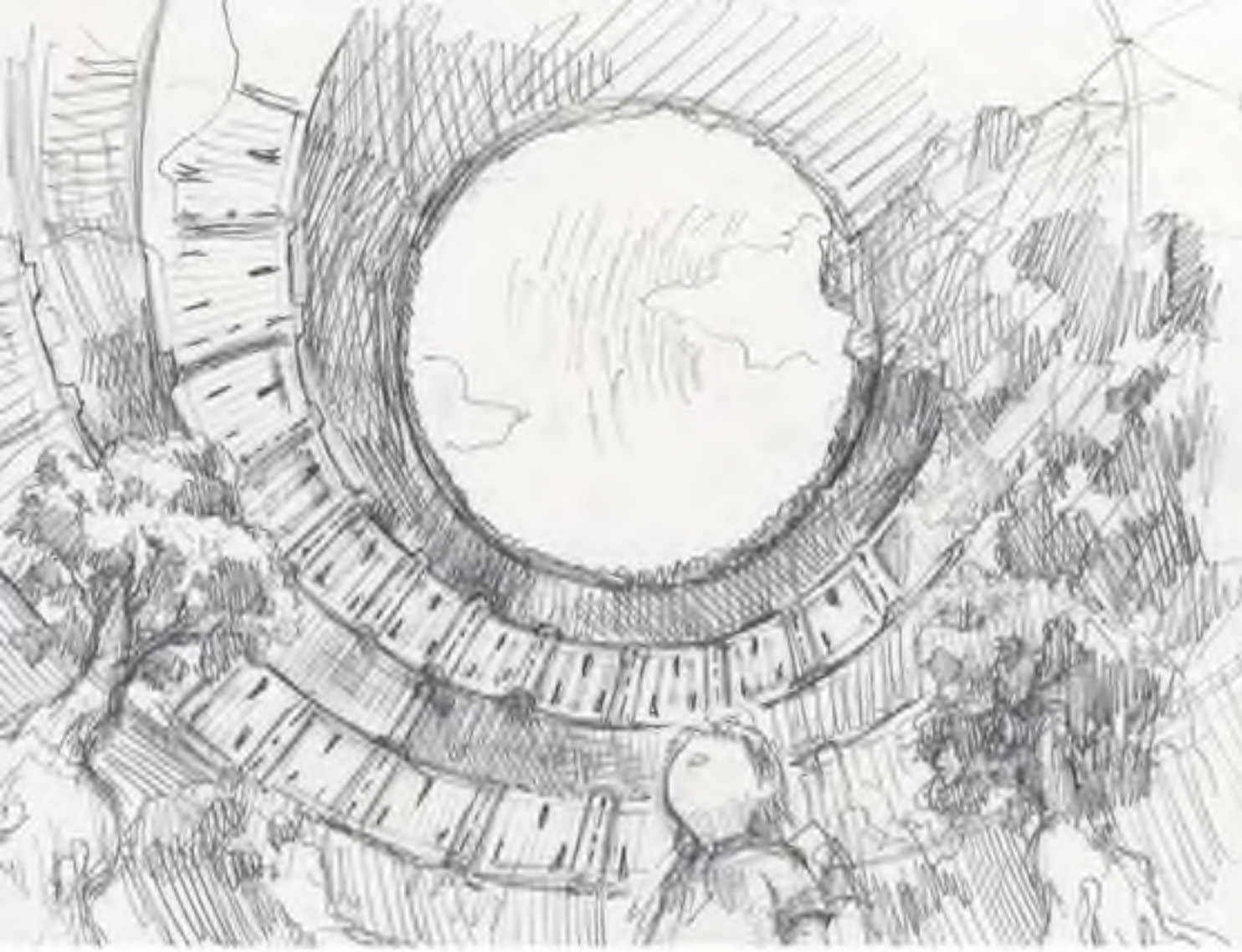

西の森に潜く、
石造りの巨人を封印せし
氷結迷宮の守護

「同志っ！ッと、
我々は守りとうお前を
同志として迎える」

最期を飾ろうとする

「自分のため、
自分らの自己満のため、
幼い同志のため、
お前は自い奴隷で
あらねばならない」

「この街の外に、
私が今まで住んでた
街があるのかな……」

そう思えるのは
思い出せない別の世界を
知っているから？

休日には
みんなで街へ

「街に慣れたら、
ラッカも仕事
探さなくちゃね」

レキの仕事は
オールドホームで預かっている
幼い灰羽たちの世話をすること

クウはカフェでお手伝い

ヒカリはパン屋で大活躍

「みんな、
私を置いて
いっちゃうんだな……」

聞こえない
レキのつぶやき

壁の落書き
窓辺の人形
クウの名残がしだいに薄む
「泣いちゃ、だめなんだ……」

力なくひとつはばたくと、
足下に落ちる病んだ羽

みるみるひがる羽の黒鏡

黒い羽は「罪悪感」の証